

2022年1月1日
第547号

(毎月1日発行)

咲いたネット

URL:

http://www.saitanet.or.jp

Eメール:

saita@saitanet.or.jp



発行所
埼玉県労働組合連合会

〒330-0063

埼玉県さいたま市浦和区高砂
3-10-11 第一木村ビル

TEL 048-838-0771

FAX 048-838-0775

編集発行人

埼玉県労働組合連合会

【定価】1部50円

(組合員の購読料は組合費に含む)



医師・看護師ふやせと宣伝 (日赤前)

2021年の埼労連の運動は、中々収束が見えないコロナ禍の中、会議のオンライン化など感染拡大に留意しながらも自公政権をストップさせるための共闘の前進、仲間を増やし組織を強化するための様々な取り組みを進めてきました。若い世代に働きかけるため、SNSの活用を入れ、全国一律最賃制度を求める取り組みでは、自民党の国会議員を招いた講演会を開催し、さらにYouTube(ユーチューブ)チャンネルでのライブ配信にも挑戦しました。

22春闘勝利・全国一律最低賃金の実現・組織強化で
だれもが安心して暮らしていける社会に!

2022年は、コロナ禍でも22春闘での大幅賃上げ獲得と全国一律最賃制度の実現、SNSのさらなる活用で、若い世代の労働組合への結集と次世代の役員育成を中心とした組織強化と拡大で、2年連続実増を勝ち取ることで、そして政治闘争では参議院選挙に向けた幅広い共闘の前進など、これまで積み重ねてきた埼労連の運動をさらに発展させ、ローカルセンターとしての力を強く大きくしていきます。

(4面に関連記事と写真掲載)



第92回埼玉県中央メーデー



オンラインも活用した定期大会



6・17最賃講演会

紙面から

■新島議長あいさつ

(2面)

■埼高教SAITANE

(5面)

■春闘討論集会

(3面)

■自治研修会

(6面)

■三郷市労連何でも相談

(4面)

■埼労共のページ

(8面)

新年のあいさつ 新島善弘

新年あけましておめでとーうございます。今年も、よろしくお願ひいたします。

長引くコロナ禍も中で、必死に生きている国民の願ひと裏腹に、国民不在・大企業優先・アメリカ屈服の政治がおこなわれていま

す。日本国憲法は、国民の権利を保障し、国家権力にしほりをかけています。このかんの政策を丁寧に憲法と照らし合わせ、いかに憲法と矛盾しているかが実感できるのではないのでしょうか。

『いまのままじゃいけるのか?』

「『いまのままじゃいけるのか?』いつも疑問をもつこと」

教え子たちに投げかけ続けてきた



さまざまな子どもたちと出会った

みんなドラマをかかえながら、必死に生きていた

いじめ、不登校、退学、DV、ヤングケアラー…

「社会」の縮図をみてきた

時代に合わないからと教育基本法を改悪され十五年評価、競争、統廃合、観点別、教育現場は、どうなったか?

時代に合わないからと

安保法制が改悪され七年

オスプレイは、我が物顔

自衛隊は南西諸島に拡大…

時代に合わないからと
いよいよ「日本国憲法」を改悪しようとしている

本当に時代に合わないのか?

政権が憲法を踏みにじっているのではないのか?

時代をさかのぼってゐるのではな
いか?

世界から、取り残される日本
ここ四〇年、すべてが悪化しているように感じる

「このままで、いいのか?」

差別・分断、貧困・格差は拡大
あらゆる分野での二極化

憲法で保障している社会権がズタ

ズタにされた

医療崩壊で生存権までも
政権交代を問う総選挙

様々な思いが交錯した

結果のみに目が奪われていないか
その波の中で埋没していないか

国家権力による

弱者への「いじめ」の構図

切実な要求をたばね、

経営側に提出

ねほり強く交渉を重ね
わずかな賃上げ

厳しいけど、充実感と達成感
困難な中でも、前進面を確信に

声をかけてもなかなか進まない
「応援しています」

「がんばって頑張ろう」の声に
どれだけ励まされるか

いまこそ、労働組合の出番
「学習」と「実践」。
そして、「連帯」と「団結」。

労働組合は「数が力」
すべての労働者を視野に

労働組合を語り、仲間を増やして
いこう

憲法は、まだ私たちの手にある
わずかな一致点を手掛かりに仲間
を増やしていこう

もう一度、読んでみよう

日本国憲法前文

日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し、われらとわれらの子孫のために、諸国民との協和による成果と、わが国全土にわたつて自由のもたらす恵沢を確保し、政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。そもそも国政は、国民の厳粛な信託によるものであつて、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれを享受する。これは人類普遍の原理であり、こ

の憲法は、かかる原理に基くものである。われらは、これに反する一切の憲法、法令及び詔勅を排除する。

日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであつて、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。

われらは、いづれの国家も、自国のことのみを専念して他国を無視してはならないのであつて、政治道徳の法則は、普遍的なものであり、この法則に従ふことは、自国の主権を維持し、他国と対等関係に立たうとする各国の責務であると信ずる。

日本国民は、国家の名誉にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓ふ。

全組合員が参加する春闘めざし 22春闘討論集会を開催

12月4日(土)、12時30分から、22春闘に向けた『春闘討論集会』がさいたま共済会館を会場にオンライン(Zoom)併用で開催され、3春闘共闘組織、埼労連加盟組織10単産・16地域組織、全体で81人が参加しました。

今回の春闘討論集会もコロナ禍を意識し、感染防止を徹底することと合わせて、密を避けるためオンライン併用の運営としました。

全体講演では、国民春闘共闘の斎藤辰巳事務局次長に講師をお願いし、「大幅賃上げ・底上げで誰



22春闘勝利にむけて討論

もが希望もてる公正な社会を労働組合でいっしょにつくろう」と題して、春闘方針と情勢の重点について報告してもらいました。

報告の中で、1990年代と比較して、日本だけが賃金上昇しておらず、その結果日本の賃金が国際的にみても低い水準になってしまっていること、最低賃金近傍で働く労働者がこの10年で2倍になっていることなどに触れ、政治情勢では、10月に行われた衆議院選挙での野党共闘について「議席を増やすには至らなかったが、前回の総選挙と比較すると、小選挙区では、議席を増やしているし、議席を取れなかった選挙区でも統一候補の得票率は増えている」ことなどを示し、「次の選挙に向けての展望をつくった」と報告しました。

講演後に、宍戸事務局長から春闘方針の提案があり、特に22春闘では、職場の要求に組合員一人一人がこだわることで、地域を軸にし

た闘いに発展させることなどを強調し、全員参加型の運動を目指していくことを提案しました。

方針提案後の発言では、全労連・全国一般、埼玉医労連、11組織から報告があり、討論を通して、コロナ禍において各職場の大変さが改めて浮き彫りになったが、全体として方針案を積極的に受け止めた発言が多かったのが特徴です。特に、いくつもの組織から全組合員参加の要求練り上げと行動への参加が強調されました。討論のまとめでは、「この間、コロナ禍でも展望を切り拓いてきた面と、まだ困難から動けていない面が組織によってあるなかで22春闘を迎える。どんな形で全労働



国民春闘・斎藤事務局次長の講演

者に参加してもらおうか工夫を凝らし、22春闘勝利に向けて奮闘していこう」と訴えました。

埼労連・埼玉春闘共闘では、各職場の奮闘を仲間に戻すための情報収集を行っていきます。春闘期に発行するニュースなどを県本部を通じて、あるいは直接寄せてください。

22春闘の勝利で、労働者の暮らしを改善していきましょう。

年末一時金要求でストも！

JMITU、埼玉医労連、建交労トラック、全労連・全国一般など民間単産が年末一時金の要求・交渉を行ってきました。

すでに妥結した職場がある一方で、交渉を継続している職場もある状況です。

JMITUは埼玉地本全体(13支部・分会)で要求額平均は94万8228円(2・868ヵ月)で、12月10日現在の集計で回答額が82万4071円(2・505ヵ月)です。日信工業支部では要求の3・5ヵ月に対し約1・5ヵ月という低額回答だったため、11月



宍戸事務局長の提案

4日の一次回答翌日の5日に30分のストライキを実施し、組合員の生の声を「社長への手紙」として取り組み、貯金を取り崩さざるを得ない実態を直接社長に見せ、「回答十一万2000円」の回答を引き出しました。

埼玉医労連はコロナ禍で医療・介護の仲間たちが必死の思いで従事している状況に経営側はこたえるべきだとして、コロナ前の19年水準に戻すことを呼びかけ、取り組みを強めてきました。

仲間の生活のため、少しでも上乗せをするため奮闘しています。

継続・発展をつくってきた一年

2020年から続くコロナ禍によって、活動の形態が変化してきた1年でしたが、その中でも様々な取り組みに挑戦してきた2021年でした。

全国一律最賃制度実現の取り組みや、ツイッター、youtube (ユーチューブ) 配信などのSNS戦略の推進、共闘の広がりなど新年に引く次ぐ前進面がつけられました。

また、継続した取り組みでは、急遽会場を変更して行った第92回埼玉県中央メーデー、オンラインでも併用した埼玉連サマーセミナー、仲間増やし交流集会、20回目

をむかえた自治体訪問行動、埼玉連ゼミなど、この間積み上げてきた運動も継続・発展させてきた1年でした。

2022年は、こうした取り組み



旗びらき



3・11春闘宣伝行動



働くなかまの春を呼ぶつどい

みをさらに前進させ、労働者の暮らしと権利の向上を実現していきましょう。



なかま増やし交流集会



自治体訪問 (上尾市)

3回目となる「何でも相談」実施

三郷市労連

12月5日(日) 午前10時から午後1時まで、三郷市社保協主催・三郷市労連共催で3回目となる「何でも相談」を実施しました。

相談ボランティアは、社保協加入団体の健和病院看護部長・ソーシャルワーカー・包括ケアの4名と協立病院のケアマネジャー、市労連、生健会、議員と舌廣弁護士を加え10人で対応しました。

当日の相談は事前相談を含め、11件ありました。内容は、法律・健康・介護・福祉・生活・生保・遺産相続・住宅2件、税金2件と多岐にわたりました。午後1時までの予定でしたが、過去2回の経験から、11時過ぎの段階で電話がストップしたので、相談ボランティアは正午で終了してもらい、後は事務局対応にしました。

具体的には、団地の年金生活者からの「年金だけでは生活がやっていけない」という訴えから、議員が一緒に来週福祉事務所足を運ぶことになったり、健康相談では病院に繋げたり、介護・福祉・

今回の宣伝としては、チラシを団地診療所の協力を得て5500枚を団地に、あとは加入団体の機関紙などに1万4500枚を折り込みました。コロナ前は、団地中央集会所での相談会で目に見える取り組みでしたが、電話相談という限られた範囲での相談会の困難さを今回も感じました。今後は、加入団体の意見を聞き、新しい形を模索したいと考えています。



何でも相談の様子

生活でもその後のケアを提案し、納得のいく対応ができ、相談者からは喜ばれたという報告も入っています。

青年教職員が組合に加入も 埼高教「SAITANE!」

10回目の開催となる埼高教恒例行事『SAITANE!』が、12月4日(土)、5日(日)に埼玉教育会館で開催されました。

『SAITANE!』は、「バテランから青年へのバトンリレー」を合言葉に、若い世代の組合員や未組合員も含めた行事として、また組織強化・拡大の取り組みとして始まり、コロナ禍以前は一泊で開催していましたが、今年も新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮し、2日間通いでの実施



青年も大勢参加

としました。

初日は「いま高校生はどんな社会で生きているのか?」『難民高校生』著者から学ぶと題して、講師に仁藤夢乃さん【c o i a b o (コラボ) 女子高校生サポートセンター】を招いての記念講演でした。

仁藤さんは、自身も中高生時代に街をさまよう生活を送った経験から、10代の女性を支える活動を行い、夜の街でのアウトリサーチをはじめ、シエルタワーでの保護や宿泊支援、住まいの提供などを行っています。支援する／される関係ではなく「共に考え行動する」をモットーに、高校・特別支援学校の教員には「せひ、一人ひとりに寄り添ってほしい」「学校で一人でもいいから、そんな先生になってほしい」と語られていたことが心に残りました。

2日目は、「鴻(高)沼から鹿手袋を歩く」フィールドワークと、「みんなで語ろう子どもたちのこと・学校のこと」と題し



仁藤さんの講演



フィールドワークの様子

たオンライン分科会が行われました。どちらも青年教職員・ベテランも参加し盛況でした。

嬉しいことに青年の未組合員参加者が埼高教への加入者を決意してくれました。

(埼高教書記次長 坂本修)

最賃引き上げと病院統廃合反対を訴え

鴻北労連は12月14日(火)の午後6時から6時30分まで、北本駅西口で最賃時給1500円への引き上げ、全国一律最賃制確立、地元の北里大学メディカルセンター統廃合反対で宣伝を行い、4団体12人が参加しました。

宣伝では「実現しよう!大幅賃上げと雇用の安定」「北里大学メディカルセンター統廃合反対」の横断幕を掲げ、チラシは10月1日から最賃が956円になったブラスタージェータをA4版で印刷して労働相談フリーダイヤルミニチラシの入ったティッシュと配布しました。30分で300セット配布ができました。また、田中事務局長がスパーメガホンを使って、



北本駅西口

「最低賃金を1500円に引き上げよう」、「全国一律最賃制度を確立しよう」、「厚生労働省は公立・公的病院の統廃合をやめろ。地元の北里大学メディカルセンター統廃合反対」などを訴えました。

入間地労連宣伝

入間地労連は11月24日(水)午後5時30分から6時30分まで入間

市駅前で定例の宣伝行動をおこなった。今回の宣伝は、「医療・介護・福祉充実」、「コロナ禍での病

院や保健所の削減はありえない」など、社会保障の充実を求める宣伝と、22春闘で大幅賃上げを求めるものでした。

社会保障関係の宣伝をしたこともあり、70代の高齢者から年金相談があり、後日電話で詳細な相談をすることになりました。

デジタルトランスフォーメーションを学習 自治労連が地方自治研究集会

自治労連埼玉県本部は、12月19日(日)、さいたま市内で第41回となる地方自治研究集会を開催しました。

今回のテーマはDX(デジタル・トランスフォーメーション)です。最近よく聞くようになったDX、それは、「ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という考え方は、政府は、デジタル庁を発足させ、官・民・全国でDXを進めようとしています。その自治体版が自治体DXです。

今回の自治研集会では、「自治体DXはどこまで進んでいるか」「自治体DXの建付けと正体を考える」「埼玉県の動き、埼玉版スーパースイッチ」「各市町村の動きはどうなっているか」「自治体労働組合・職員はどうすべきか」について、それぞれのレポートをもとに考えました。

科学の進歩の到達としてのIT技術は、生活を豊かにするという意味で積極的に活用すべきです。

しかし、政府が進めるDXはその背景に財界戦略があります。自治体DXも、このまま進めばマイナンバーを基本に様々な個人情報をはじめと、公民共同で活用し、儲けネタにされます。全国的に標準化されたシステムは、かえって住民サービスが後退する自治体も出てきます。セキュリティも大問題で、一番問題なのは、国民・住民が知らないうちに、ことが進められていることです。



オンラインも使って学習

未加盟の私学労組と懇談

秋のたたかいで埼玉労連が提起した中立労組訪問・懇談で、所沢地区労がアンケートを地区労の封筒で発送したところ、2組合からアンケートが返ってきました。そのうちの1つ、秋草学園短期大学の担当者に連絡を入れたところ、11月30日(火)午後4時30分から所沢地区労会館で懇談をすることになりました。

懇談には連絡をくれた短期大学

部の教職員が対応し、地区労の市

川議長、春日事務局長と意見交換しました。職場の状況としては、

理事長のワンマン経営により教職員が声を上げられない実態がある

一方、不安をもっている教職員も少なくないことから、声を聞いて

いきたいと話してくれました。また、短期大学部には他に組合員が

おらず、以前あった短期大学の教職員組合も事実上ない状態との

こと、教職員組合があったときは地区労にも加盟していたとのことでした。

懇談は午後6時まで和やかに続き、今後も懇談を続けていこうということになりました。所沢地区労では、もう1つの中立労組からアンケートが戻ってきて、連絡担当者名が記載されていたので、現在連絡をいれて返信を待っているところです。

(所沢地区労発)

組織実増へ3つの取り組み

蕨地区労協は定期総会で来年6月現勢での増勢をちかとする方針を1番はじめに掲げました。具体的な目標は今年の6月現勢から23人増やすことです。

秋のたたかいでは、3つの取り

組みをすすめています。1つが、

全労連「変える」ピラ第2弾を使った対話活動で、各職場で「変える」ピラの活用が始まり、地区労

としては、中立労組に対して埼玉

連アンケートとともに郵送、共同

している市民団体の機関紙への折り込み、駅頭宣伝などでの活用をしています。1月に行う自治体門

前宣伝でも活用すること、市立

病院への激励宣伝でも使うことに

しました。

2つめが、公務職場で働く委託

労働者へのアンケート活動を通して働きかけです。地域のつながりを生かし、この活動への協力者を

広げながら取り組みを具体化して

いきます。

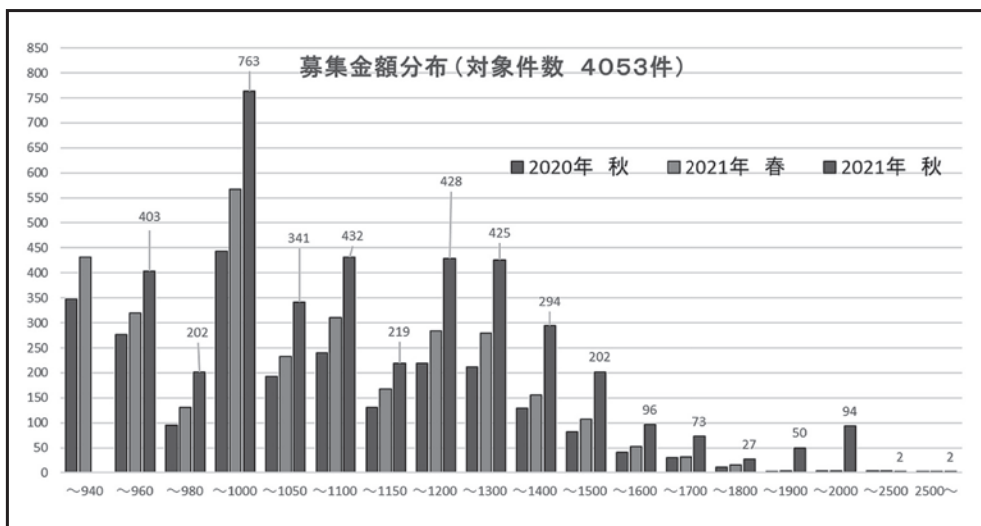
3つめは、労働組合の活動の可視化・見える化を図ることです。各組合で活動を見えるように工夫し、組織拡大につなげられるよう具体化を図ってもらっています。

市職労では、学童保育について児童福祉課と懇談を行い、その内容をニュースにして市内の各学童室に届け、学童指導員に知らせています。年金者組合では活動紹介の独自ピラをつくり、7人で地域を訪問、対象者には加入袋を持って声かけし、3人が加入する成果をつくっています。

(蕨地区労協発)

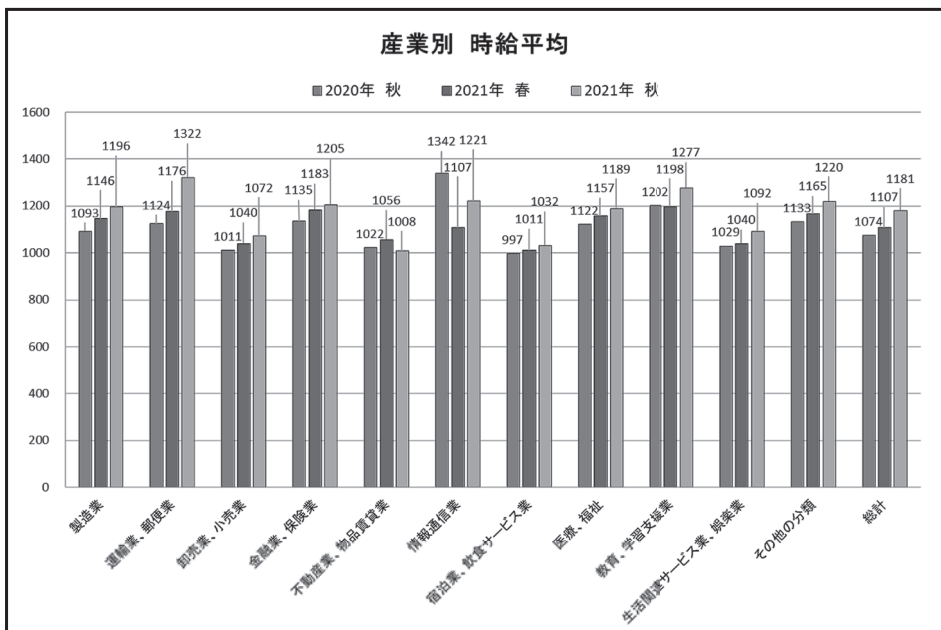
秋の時給調査まとまる

今年も秋の『募集時給調査』が
まとまりました。
全産業の平均時給額は1180
円(前年同時期1106・1
円)となり、昨年より約75円引き
あがっています。



また業種ごとの時給の推移では、2019年の秋とコロナ禍以降の募集で大きく変化しています。コロナ禍の影響で、生活関連サービス業(娯楽産業等)と飲食・宿泊業(外食産業)、製造業の募集件数が落ち込み、今年の調査では運輸業(宅配・物流)が1位(昨年2位)になりました。いわゆる「エッセンシャルワーク」と呼ばれる産業では、依然として人手不足の状況

が続いていますが、コロナの影響が大きかったた外食産業と娯楽産業(産業別平均額が低い業種)の募集の落ち込みが多かったため、結果として平均時給を押し上げる要因となっていることがうかがえます。全体としては、全産業で1000円を超える平均額になっていることは、東京(最賃1041円)と同水準の募集額にしなければ人を雇えないという首都圏特有の地域性が表れています。22春闘でも、コロナ禍ではあっても、パートやアルバイトをはじめ



めとする非正規労働者の賃金について、少なくとも1000円以上の時給を求めていくことの正当性が今回の調査で示されたので、当事者である非正規の労働者とともに声を上げていきましょう。

390人の教職員からアンケート回収 春日部労連

春日部労連は定期大会で組織拡大方針を持ち、「組織の1%実増」を目標にしています。今年の6月現勢で春日部労連が65人増えたことや、秋のたたかいのなかで、ほかの組合でも職場で1人、2人と拡大がすすんでいることから、「目標をもって春日部労連の拡大・強化をすすめるよう」と取り組んでいます。

秋のたたかいでは、最賃宣伝をSU春日部支部と共催して、次世代の仲間が自分の言葉で最賃引き上げの大切さを訴えてきました。また、春日部市教組は20人弱の単組ですが、組合員が奮闘して全教職員を対象にしたアンケート活動に取り組み、390人ほどのアンケートが返ってくるという大きな成果をかちとっています。

職場でのパワハラ問題に悩む声にこたえて、市教組は改善を求め、市の教育委員会との交渉を続けています。(春日部労連発)



わが青春つきるとも 映画制作・上映協力の案内

この映画は、100年前、天皇制の下で人権・民主主義・男女平等を求めて権力に抗した一人の女性の生涯を描いています。

今、世界で多様性が尊重され性別による差別を許さない流れがある中、日本は自公政治の下で男女格差は賃金で女性は男性の55%程度で生涯1億円にも及ぶ状態が解消されないばかりか、コロナ危機で特に非正規の女性労働者に大きなしわ寄せが及び、その影響もあり女性の自殺者が急増する状況です。しかし、そんな中でも自公政権は格差と貧困を拡大している新自由主義政策をさらに押し進めようとしています。また、戦後公布された現憲法の平和主義、第9条の改憲を狙っています。すべての

人が平和に生きることが望むことすら阻む治安維持法が人々を弾圧した時代に声をあげ行動し続けた少女の生きざまは、その後の社会に大きな影響を与えました。

この映画は、今また国政の私物化やルール無視の強権政治がまかり通る情勢のもとで、反動勢力による戦争でできる国づくりの策動とせめぎあいにあるなかで、「人権」「民主主義」「男女平等」そして「平和」を求める声の結集で、反動勢力を包囲し、世界の常



識を近づけるとりくみを大きく前進させる一助となるもので、「映画」という視覚・聴覚を通して人々の心を動かし、要求実現に向けた運動の原動力となると位置づけ、制作協力および上映協力を行うこととしました。

埼労共は、映文協主催映画、映画「時の行路」同様、組合員とその家族について900円を超える場合に助成します。

5月9日(月)に埼玉会館小ホールにて、県上映実行委員会主催での上映が予定されています(詳細は未定)。埼労共は、今後普及のとりくみをすすめます。

共済学習の案内

暮らし応援、仲間同士の助け合い。それが「共済」です。

ライフステージを見守った共済の活用や万が一の備えを考えるため、「共済ミニ学習講座」をオンライン併用で開催します。第1回は「自然災害共済」について1月14日(金)午後6時30分〜(30〜40分程度)でおこないます。

事前登録制で運営します。別途ご案内しますので、参加を希望する場合は、確認の上お申し出ください。

フードバンク

第67便

12月の埼労連フードバンク活動は、この間寄せられた物資を第67便として、12月9日(木)にフードバンク埼玉の窓口である埼玉労福協に届けてきました。

今回は埼玉土建主婦の会から、ジュースのセット2箱、全労連・埼玉ユニオンからは、お茶、レトルト食品、乾麺などが提供され、



フードバンク67便

全体で10・7キログラムとなりました。

ミニ

共済学習会 2022年1月14日(金) 18時30分~
自治労連会館 3階会議室

第1回 自然災害共済

キーワード : 生活再建